

日刊 勤労千葉

1988.11.2
No.2918

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

上越線貨物事故を許すな！千葉支社も同罪！ストライキ体制を確立しよう

十月十九日、上越線渋川―敷島間で発生した貨物列車脱線・転覆事故が起きた高崎支社内で、今年に入ってから重大な事故につながるミスが続出していたことが「朝日新聞」で暴露された。

動労連帯高崎の告発によれば、

- ①六月下旬、大宮駅で交替するはずのホームライナーの運転士がいなかったため、一度も運転したことのない東北線の乗務を強制させられる。一応、指導員をつけただが、その指導員も三年間東北線に乗り入れたことがなかった。
- ②乗務中に気分が悪くなった運転士が交替を要求したが無視され、上野に到着したとたんに倒れ、救急車で運ばれる。
- ③国労などを本務からはずし、穴埋めの

ために短期養成された乗務員が、上野で信号誤認。あわや正面衝突という事故が発生。

- ④新前橋電車区では、入換信号を冒進して衝突寸前という事態が連続発生。
- ⑤雨の日に、故障したパンタグラフを起電停止もせず運転士に修理させる。

などが起きているのだ。千葉支社内でも全く同じだ。八月十一、十二日に台風・地震で列車が乱れに乱れ、深夜まで列車が途中で止まり、千葉―蘇

指令第3号を貫徹しよう！

- 一、各支部は、11月5日0時以降、全組合員を対象とするストライキ突入の準備体制を確立すること。
- 二、各支部は、闘争体制を確立するために11月5日職場集会を開催する

など。

特急あわや追突・赤信号見落とし…

ヒヤッ今年ミス数件

上越線 JR高崎支社で続出

群馬県のJR上越線渋川―敷島間で十九日未明、貨物列車同士の脱線衝突事故があり、同線は約三十七時間不通になったが、同線を管轄するJR東日本高崎支社管内では、今年に入ってからだけでも、一歩間違えば惨事になりかねないミスが数件起きていることがこのほど、同支社の内部資料で明らかになった。電線トラブルで動かなくなった列車に、信号の異常で突っ込んだ特急が追突しそうになったり、単線区間で事故防止のためのダブルレット（通票）を忘れてあわてて列車を猛スピードで後退させるなどだ。JR東日本は、十一月から過去の事故事例の研究や現場での運転マニユア

ルの徹底など緊急安全対策を進めることにした。

特急が追突しそうになった事故は、今年二月五日にあった。

JR信越線高崎発横川行き下り普通列車が西松井田駅を出発した地点で電線のトラブルなどがあり、緩い上り区間で車輪が空転して動かなくなった。同支社運輸指令室に連絡、応援を得てレールに砂をまいていたところ、後ろから下り特急一あさまが急接近し、普通列車の二、三十メートルで急停止したという。

「信号が青になったのにどうなってるんだ」との運転士の抗議で運輸指令室が調べると、砂で車輪とレールが絶縁され、列

車がないのと同じ状態となり、信号が青になったことが分かった。また二月二十二日、JR八高線児玉駅では、下り貨物列車の運転士が単線の二駅間に他の列車を進入させない閉そく状態にするためのダブルレットを受け取るのを忘れ、次の丹荘駅近くで突然、猛スピードで後退させた。規則では、その場で停止して連絡するように定めてあり、何も知らされなかった指令室は、「考えられないような重大な違反」と驚いた。

さらに、七月三日夕には、JR東北線上野駅構内で、上り新特急「草津82号」の運転士が別の場所に信号があると思いつた

これが全国モデル高崎支社の実態！

1988年(昭和63年)10月31日 月曜日 頁 三

肉も無く安全なし

全組合員の手を結んで組織破壊攻撃を粉碎せよ！